

みんなが笑顔になるように いじめ根絶をめざし 関川小で「夏いじめゼロ集会」



7月1日、関川小学校でいじめ根絶の意識高揚を目的とした「夏いじめゼロ集会」が行われ、全校児童が参加しました。これは「いじめ見逃しゼロ県民運動」に合わせて行われたもの。

集会では、クラスごとに「声を掛け合う」「元気なあいさつをしよう」「みんなですなぐ、やさしい心をもつ」などいじめをなくすための発表がされました。また、運営委員が主体となった劇では、仲間はずれや無視をされたら

どう思うかなど、全校児童に問いかけながら進められ、児童から「自分がそういうことをされたら嫌だ」「無視は、された人がかわいそう」などの感想が聞かれました。

運営委員長の野沢輝星くん（6年・勝蔵）は「運営委員として、みんなと協力しながら準備をすすめてきました。いじめはよくないということを伝えられたと思います。この集会を通して、いじめをなくしてほしい」と話していました。

緑の募金に 19万円が寄せられました ご協力ありがとうございました

公益社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会が行った緑の募金に、一般家庭のほか小・中学校や緑の少年団などから、あわせて1,511件、19万6,453円が寄せられました。

寄せられた募金は、公共施設の緑化や学校林、緑の少年団育成、植樹祭や普及活動など、森を守り、育てる活動に使われる予定です。

また募金の一部は、東日本大震災で被災した地域の復旧・復興の費用として役立てられます。



▲関川中学校からは、松田望さん（3年・下関、写真中央）と佐藤奏さん（3年・高瀬、写真右）が届けてくれました。

「きれいなあらかわ」 園児が河川愛護の花植え



6月27日、村内保育園の年長児29人が国道113号沿いの荒川土手（辰田新地内）で河川愛護を呼び掛ける花植えを体験しました。

これは、羽越河川国道事務所の主催で、7月の河川愛護月間に合わせて行われたもの。この日準備されたのは真っ赤な1200株のペゴニアで、園児たちは説明を受けながら、一株ずつ丁寧に植えました。

桂澤菜央ちゃん（田麦千刈）は「お花がきれいで、すごく楽しかったです。また花植えをやってみたいです」と話していました。



▲秋ごろまで楽しめる花文字

関川村初の力士誕生！

小池一毅さん(下関)

しころやま
鍛山部屋へ入門



▲鍛山親方と会見に臨む一毅さん(写真左)

夢を追い求め「角界」という厳しい世界へ飛び込んだ小池一毅さん(17歳・下関)。「このたび、学生相撲の強豪校、海洋高校(糸魚川市)を中退し、元関脇の寺尾関が師匠を務める鍛山部屋への入門が決まりました。」

相撲との出会いは3歳の頃。当時、新潟市の相撲教室で指導者をしてきた父親の一毅さんに付いていって真似事をし遊ぶなど、幼いながらに相撲が身近な存在でした。

小学1年生からは、相撲と柔道を掛け持ち。その恵まれた体格を活かし、柔道でも相撲でも素晴らしい成績を残してきました。特に相撲では、小学4年生のとき初めて出場したわんぱく相撲全国大会でいきなりの準優勝。小学6年生のときは大病し、土俵に上がれる状態ではなかったものの、会場まで松葉杖で移動し、気持ちの入った取り組みで、見事3位に入賞するなど、子どもの頃から全国の舞台で活躍してきました。

中学2年生の夏休み、14歳の一毅さんはこれまで相撲と掛け持ちしてきた柔道をやめ、相撲の道へ進むことを決意。親元を離れ、糸魚川市にある相撲の強豪校、能生中学校へ転校しました。ケガや病気に苦しみながらも、3年生の時、全国中学校体育大会で3位に入賞。海洋高校在学中もインターハイに出場するなど全国から注目される選手となりました。

これからプロの力士として厳しい世界へ進む一毅さんへ父親の一毅さんは「ゆかた姿を見てプロに入ったんだと複雑な気持ちになりました。勝ち負けの世界ですが、3年、5年と修行する気持ちでがんばってもらいたい」とエールを送り、一毅さんは「中学校、高校と多くの人に迷惑をかけてきましたが、多くの人が支えてくれました。これからはプロとしての自覚をもち、上を目指して精一杯の努力をしていきたいと思えます。これからも、応援よろしくお願います」と決意を新たにしていきました。

担ぎ手デビューを控え 大したもん蛇まつりを学ぶ

～関川中で学習会～



7月9日、関川中学校で1年生を対象にした大したもん蛇まつりの学習会が開催されました。これは、まつり本番を控え、まつり誕生の経緯やテーマなどについて学んでもらおうと行われたもので、昨年引き続き2回目の開催。

講師は、第1回大したもん蛇まつり当時の責任者を務めた佐藤忠良副村長が務めました。学習会では「このまつりは、村民が知恵を出し合い、勉強会を重ね、誕生したもので、

大蛇の胴体は54集落で作られていて、村の力が結集されている」などの説明を受けました。また、実技演習では担当者から「台と台の間に手や顔を挟んでケガをする人もあるので気を付けてほしい」などのアドバイスを受けました。

伊藤あすかさん(南中)は「今日の話聞いて、まつりを成功させるにはたくさん人が必要だと感じました。今回習ったことをまつりに活かしたい」と話していました。